

2018年5月29日

京都大学とドイツ学術交流会(DAAD)がマッチングファンドプログラムを開始 —SDGs 達成に向けた未来につながる日独科学技術協力を推進—

ポイント

- 世界が着目する「国連の持続可能な開発目標 (SDGs)」*を共通の上位目標とする、海外ファンディング機関とのマッチングファンドプログラムを日本で初めて構築
- 志が高く、国際的な共同研究の核となり得る若手研究者を発掘、彼・彼女らを後押しして日本の研究者の内向き志向を打破しようとする取組
- 京都とドイツ(欧州拠点)に駐在する京都大学のリサーチ・アドミニストレーター (URA) と DAAD 本部との連携・支援を組み込んだ、先駆的な若手研究者の双方向モビリティ促進プログラム

1. 概要

京都大学の山極寿一総長とドイツ学術交流会(DAAD)のドロテア・リューランド事務局長は、平成30年4月17日付で、「国連の持続可能な開発目標 (SDGs)」達成を推進しようとする若手研究者の研究交流の促進を図るマッチングファンドプログラム設立に署名しました。これは、同ファンドを用いて志の高い若手研究者のモビリティを向上させ、日独を中心とする SDGs 達成に資する未来につながる科学技術協力体制の構築を目指すものです。海外のファンディング機関と SDGs を共通の上位目標としたマッチングファンドプログラムを実施するのは、本件が日本の大学・学術研究機関・ファンディング機関の中で初めての事例となります。



2. 期待される成果・波及効果

京都大学は、その基本理念に「地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを掲げています。また、DAAD は「大学間の国境を越えた協力とパートナーシップを支援し、それにより対外的な（途中略）開発政策の目標を達成することを目指す」としています。本プログラムは、多元的かつ多様な学術分野の発展を通して SDGs 達成へ貢献しようとする志の高い日独の若手研究者の背中を押し、将来的に国際共同研究のハブを担う若手研究者が集う国際的な研究環境の整備に取り組みます。更に、頭脳循環を加速させ京都大学の国際的な地位を世界トップレベルに向上させるためのスタートボタンとなることが期待されます。

3. 今後の展望

SDGs の達成推進は、とりわけ世界の学術・科学技術を牽引する日独両国にとって社会的な責任であり、両国政府も各種政策に掲げて積極的に取り組んでいるところです。これをきっかけに、京都大学だけでなく他の日本の大学へも本プログラムを展開・拡大していくことを将来展望として掲げています。

4. プロジェクトについて

<趣旨と目的>

若手研究者（Early Career Researcher: **ECR***）のモビリティ向上を通じて、京都大学とドイツの高等教育・研究機関間において国連の持続可能な開発目標（SDGs）貢献に資する多様な学術研究分野の協力関係を構築することを目的とする。特に、京都大学とドイツの既存の交流や新規交流計画に基づいて、多層的かつ中長期的なパートナーシップを構築することを主眼としている。

<資金>

DAAD と京都大学から、それぞれ総額 20.000EUR(240 万円程度)／年を 2018～2021 の 3 年間（第一フェーズ）にわたり拠出する（＝マッチングファンド）

<用語解説>

*国連の持続可能な開発目標（SDGs）：

SDGs とは 2015 年 9 月の国連サミットで採択された、17 の目標と 169 のターゲットから構成される「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」。これらは先進国も含めて、全ての国・社会が直面する課題を包摂して掲げた国際目標であり、各国の成長戦略や「第四次産業革命」への対応に向けた未来社会構築とも深く関係している。日本政府も内閣総理大臣を議長とする SDGs 推進本部を設置、SDGs と連動する官民をあげた Society 5.0 の推進や科学技術イノベーション(STI)の貢献が政府の成長戦略の柱の一つとなっている。また、民間でも SDGs を念頭においた ESG（Environment, Society, Governance）投資を経営戦略に位置づける企業が増えていくなど、SDGs は世界中で急速に注目を集めているキーワード。

***ECR**：博士学位を取得中の博士課程学生を含み、博士学位(Ph.D.)取得後 5 年以内 の研究者